

## 第36回「現代仏教講演会」

(主催 東大寺/大仏奉賛会、朝日新聞社)

日時 10月28日(土)13時30分～16時30分(入場無料・申込不要)

会場 東大寺総合文化センター 金鐘ホール

(主催 東大寺・大仏奉賛会 後援 朝日新聞社)

### 演題

第1講 「なぜ仏像はハスの花の上に座っているのか」

静岡大学農学部教授 稲垣<sup>ひでひろ</sup>栄洋 氏

第2講 「共に働き共に生きる—小さな町の牧童たち—」

植村牧場代表 黒瀬 礼子 氏

\* 現代仏教講演会は“仏教に関わることで現代に通ずること”が一貫したテーマであり、毎回ユニークな講師をお招きして好評をいただいております。今回の講師は、演題と同名の著書で話題の人気植物学者、稲垣栄洋氏と、東大寺からも近い般若寺の向かいにある植村牧場の代表、黒瀬礼子氏にお願いいたしました。

草木国土悉皆成仏という言葉があります。心のない草木国土にも仏性があるという解釈になるようですが、果たしてそうなのでしょうか。稲垣氏は、その数多い著書や講演を通じて、植物のしたたかとも言える豊かな生命活動を紹介されています。それぞれの植物には“生き方”があるのだと思えてきます。草木にも心があるように思えてきます。大仏造頭には“動植咸榮”ともあり、動物も植物も並列に祈りの対象とする当寺ですが、植物の“命”をどのように思うか。仏教雑誌に連載を持っておられた稲垣先生から興味深いお話を伺えることになるでしょう。

植村牧場は明治17年創業、奈良で一番古い街中の小さな牧場で、黒瀬氏はその4代目。明治時代からの牛舎には30頭の牛が飼育され、一日1500本の低温殺菌牛乳を奈良一円の一般家庭やホテル、レストラン等に宅配されています。1本1本手作業での作業で、ある意味日本一遅れた牧場だとも氏は言われます。又15名余りの知的障害者の人達が働いておられ、障害者雇用についても先駆的存在であります。各方面から講演等で引く手数多の氏のお話。単に事業家として、あるいは福祉家としてのお話に止まらない、人と向き合い、動物と向き合う黒瀬氏のお話、人としての生き方に示唆を得る機会になろうかと存じます。

講演会は申し込み不要で入場無料です。秋冷のする頃となりますが、紅葉に向かう境内の金鐘ホールへのお越しをお待ちしております。